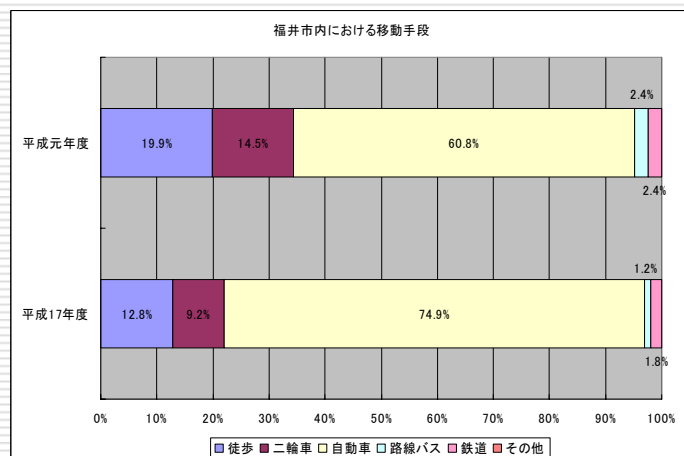


6. 公共交通等

図6-1 福井市内における移動手段

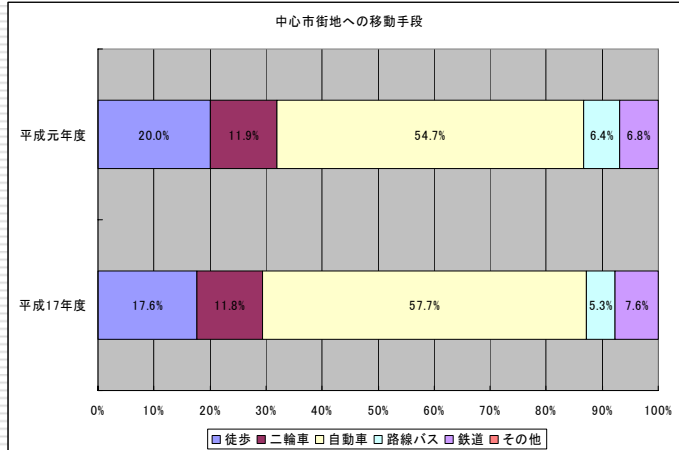
- 福井市全体では、自動車の利用度が高く、平成17年度には、平成元年度よりも、割合が14ポイント程度大きくなっている。



(出典:パーソントリップ調査)

図6-2 中心市街地への移動手段

- 中心市街地では、徒歩や公共交通機関の利用度が相対的に高い。
- 平成17年度には、平成元年度と比較して、自動車及び鉄道の利用度が若干増えている。



(出典: パーソントリップ調査)

図6-3 移動手段別トリップ数の推移

- 移動手段別総トリップ数の平成元年との比較を福井市全体と中心市街地についてみると、福井市全体では自動車トリップ数のみが増加し、他の手段は減少している
- 中心市街地へのトリップは自動車を含む全ての手段で減少している。

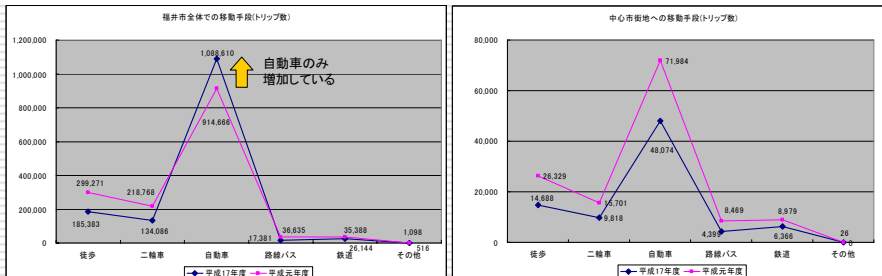
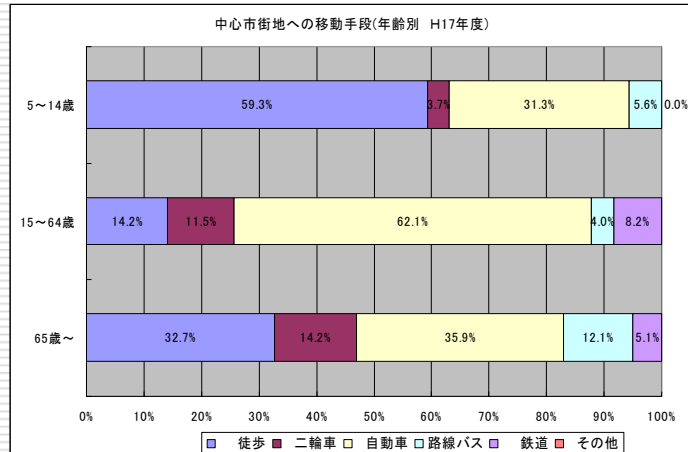


図6-4 世代別の移動手段の利用度

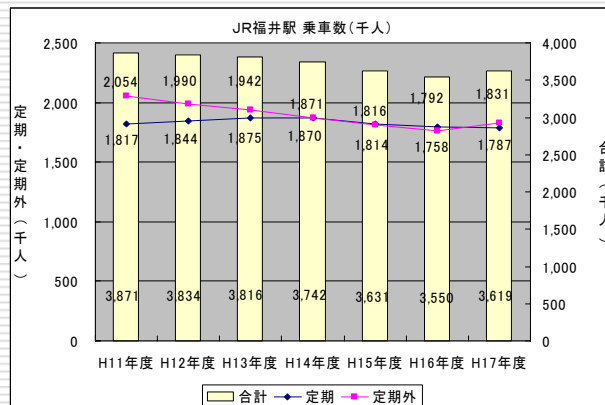
- 中心市街地への移動手段について年齢別にみると、65歳以上高齢者の路線バスの利用割合が特に高くなっている。



(出典:パーソントリップ調査)

図6-5 公共交通機関の利用状況(1)

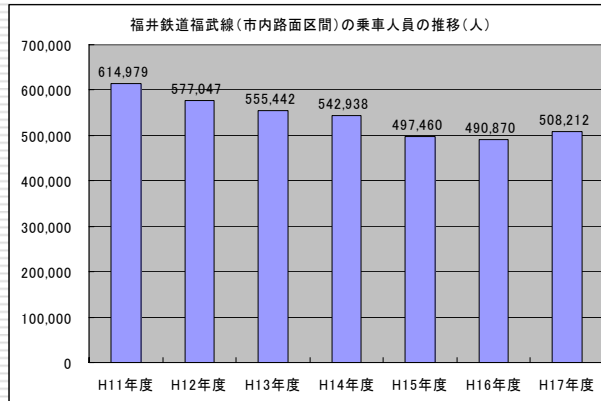
- 公共交通機関の利用状況をみると、JR福井駅については減少傾向にあったが、平成17年度には増加に転じている。



(出典:JR)

図6-6 公共交通機関の利用状況(2)

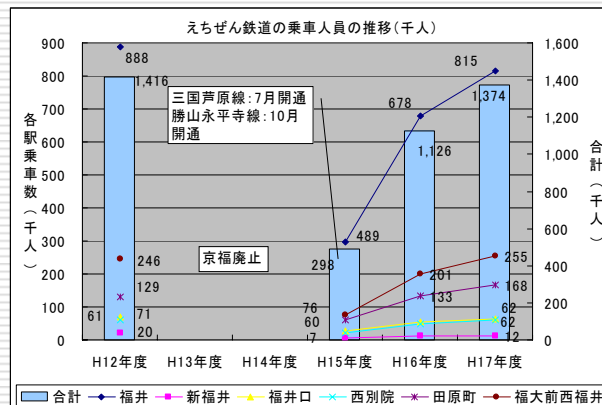
- 福井鉄道福武線は減少傾向にあったが、平成17年度には増加に転じている(市内路面区間)。



(出典:福井鉄道株)

図6-7 公共交通機関の利用状況(3)

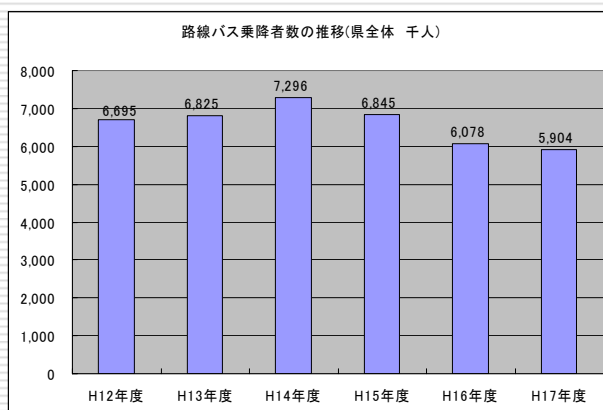
- えちぜん鉄道では、平成17年度には、平成12年度乗車人員の97%まで回復している。



(出典:えちぜん鉄道株)

図6-8 公共交通機関の利用状況(4)

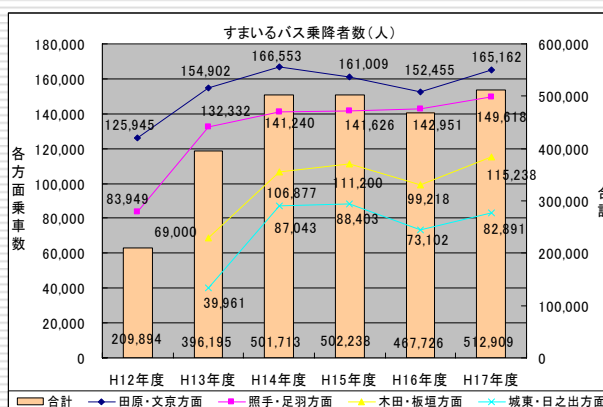
- 路線バス(京福バス)については、減少傾向にある。



(出典:京福バス株)

図6-9 公共交通機関の利用状況(5)

- すまいるバスについては、平成12年度の開業以来総じて増加傾向にある。



(出典:まちづくり福井株)

□ 考察(公共交通)

- ・中心市街地への交通手段として、自動車以外の路線バス、鉄道等の利用が福井市全体と比較して相対的に高く、あらゆる交通手段で利用可能な立地特性を有している。
 - ・これは、自動車を持たない高齢者等のいわゆる「交通弱者」にとって、利用可能な地区であるということができる。
 - ・アクセス性の充実(ダイヤ編成の見直し、新駅の設置、公共交通機関の相互乗り入れ、)、パスネット(各公共交通機関共通の定期券(磁気カード)などのソフト施策により、快適に中心市街地に来てもらうための施策等公共交通機関の充実により中心市街地の優位性を高めていく必要がある。
 - ・新幹線開業の効果を中心市街地においても受け止めるために、新幹線利用者が中心市街地に滞在し、回遊してもらえる方策を検討していく必要がある。
-